

光葉ワーキングクラブメールマガジン

179号 2022.05.06 配信



<2022年5月号>

大学の正門から3号館まで続くモミジバフウ並木の青葉が目にしみる季節となりました。学内に目を向けると3号館南側の道路はランドスケープとして整備され、新しいベンチには学生たちの談笑する姿がみられ活気を取り戻したようです。コロナ感染症は、徐々に減少しているとはいえ連休明けには再拡大の恐れもあるとの予測が出ています。これからも感染予防の基本を守り、休養とバランスの良い食生活を心がけていきたいものです。(『食』関連ネットワーク)

■同窓会だより

◆光葉同窓会報98号発行

◆2022年度 第1回 ワーキングネットワーク委員会開催

4月23日、光葉同窓会研修室で対面(11名)とZoom(2名)による委員会を行いました。金子朝子会長の「支部会のご協力や学生の参加方法などを考え、ワーキングネットワークの活性化を同窓会全体の活性化に繋げていきましょう」というご挨拶からスタートしました。新ネットワーク(福祉共生・消費ネットワーク)の設立、イベント企画、メルマガ発行、定例ミーティングなどを1時間で討議しました。(磯邊まみか)

◆2022年度 第1回 同窓会委員会 5月10日(火) 11:00~12:00

◆全国支部長会 5月14日(土) 11:00~12:30 (ハイブリット形式で開催)

◆第49回光葉同窓会総会 5月15日(日) 11:00~12:30 (ハイブリット形式で開催)

■学園だより

◆キャンパスにコミュニティエリアが新設

造園コンサルタントとして活躍する片木孝子さん(1997年 生活美学科卒)が設計を手がけました。

・てるてるテラス

こども園と初等部にかけて広場を整備し、4月12日にオープニングセレモニーが行われました。

「てるてる」はお日様のように輝き、元気にのびのびと成長してほしいという願いがこめられ、環境にも配慮した土壁や小道にはさまざまな木々が植樹され自然と触れ合えます。

・コミュニティエリア

3号館南側道路にテーブルやベンチが設置されました。

人見記念講堂の第1緞帳に描かれている「躍動する光」をモチーフとし、今後はデッキテラスやカフェも設置され、さらに開放的で活発な交流の場となります。



◆昭和デジタルスクエア コワーキングスペース 運用開始

2021年、創立100周年記念事業の一環で大学10号館1階に開設しました。4月23日(土)、オープン記念イベントがあり、トークイベント、ワークショップ、デジタルスタジオでの機器説明などが行われました。学園と社会・地域を繋ぐコワーキングスペースです。学生と企業によるプロジェクト活動の場となるほか、多くの方々が参画できる講座など、開かれたデジタル教育の拠点として活用されます。 問い合わせ先 E-mail: sds-toiwase@swu.ac.jp

◆昭和女子大学創立 102 周年記念式（6000 名近く of 同窓会会員にもライブ通信を行いました）

4 月 30 日（土）10:45～11:50 人見記念講堂

閉会後に人見記念講堂リニューアルオープン記念演奏会が行われました。

◆光葉博物館「川平朝清が語るふるさと沖縄」トークイベント オンライン参加申込受付中

オンライン（Zoom）配信申込先 光葉博物館ホームページ <https://museum.swu.ac.jp/>

■ 広げよう光の葉

須田 祐子 さん（旧姓:小林）

2003 年 英米文学科（神奈川県支部）

私は、会社員の父と専業主婦の母との間に2人姉妹の長女として 1980 年、山梨県甲府市で生まれた。小学校からは神奈川県横浜市、中学からは隣の大和市で育ち、地元の公立高校を卒業した。その後、昭和女子大学の英米文学科に進み、2年次には留学の機会を得て、前期・後期共にボストン校で過ごすことができた。英米文学科に進んだものの、英語は苦手で、海外に行ったことがなかった私にとって、この経験はすべてが新鮮で、衝撃であった。

ボストンでの生活を通し、日本と異なる文化を肌で感じ、様々な人々と出会い、異なる価値観に触れ、成長させてもらうことができた。帰国後には英語のスコアが飛躍的に向上していた。この様な環境を与えてくれた大学と、現地で指導して下さった魅力溢れる先生方、温かいスタッフの皆様には本当に感謝している。学生寮で一緒に生活した友人たちとは今もつながっている。生活を切り詰めて私の留学を支えてくれた家族には頭が上がらない。

大学卒業後、上場 IT 企業の営業職に就いた。運よく営業成績が良く、新人賞や社長賞を獲得し、同期で一番早く管理職に昇進した。幹部候補にも選ばれ、仕事は順調、人間関係も良かった。しかし、就労時間は毎月 400 時間を超える激務であった。刺激的で面白い職場だったが、同僚らが体調を崩して去っていくのを見て、私もここで長くはもたないと転職を決意。

小さなメーカーの事務職に就くことができた。平和な日常を取り戻したのだが、今度はもっとやりがいがあると思うようになった。「人と深く関わって誰かの役に立つ」様な仕事をしたいと感じるようになっていた。我ながら贅沢にできている。

そんな折、私を採用し育ててくれた上司がヘッドハンティングで会社を去ることになった。それを機に私も挑戦してみようと決心した。国家資格を取ることに決め、実家においてもらい、1年の期限付きで大学再受験の勉強を始めたのである。携帯、メールをシャットアウトし、1年間朝から晩まで体力気力の限り勉強した。翌年、第一志望には届かなかったものの、歯科大の特待生枠の合格通知を手にすることができた。昭和で英語の力をつけさせてもらったことが大きかった。

そして、私は今、歯科医師として充実した日々を送っている。求めていた「人と深く関わり、人の役に立つ」仕事にようやくたどり着いたと感じている。

歯科医師（小林 祐子※保険医登録名は旧姓）として臨床現場に立って感じることは、人々に歯や口の健康について知ってもらいたいということだ。もっと早く知っていたら…と後悔を口にする患者さんと接するたびに痛感するのである。虫歯は感染症であるということを知らない人は少なくない。歯間ブラシとデンタルフロスの使い方を知っているだろうか。どのような歯磨きをしたら虫歯や歯周病にならないのか知った上で歯を磨いているだろうか。子供や高齢者の口の健康のためにできることがある。等々、伝えたいことは山ほどある。これを読んで下さった方には、ぜひ、歯の健康に興味を持ってもらいたい。

（神奈川県大和市 オーク歯科クリニック勤務）

【End】